

“良い者テロリスト”を攻撃するな——オバマがロシアに 怒る

【訳者注】これは10/3「シリア：ロシアの介入が米英のウソを暴く——テロリストはアメリカ」の補遺として訳した。この論文の引用典拠となっていたもので重複部分もあるが、併せて読めば、なお一層はっきりするであろう。テレビの解説などでは、シリアの争いが三つ巴か四つ巴になっていて、複雑だとは言うが、どの説明を聞いても、イスラム国が自然発生して、自前で大きくなったかのようである。肝心のことを言わないために、視聴者はいつまでたっても理解できない。実は、アメリカとその西側同盟国が、生みの親、育ての親、カネや武器や新兵補給の親であり、実は“良い者テロリスト”と“悪者テロリスト”の区別もない。アメリカが大胆にも自分の資産だと公言する前者「アルヌスラ」とその友好集団も、国連安保理によって、後者「イスラム国」ISISの別名（偽名）と認定され、危険なテロ集団のブラックリストに入っている。

これだけのことが公然の事実として、すでに秘密でもなくなっているのに、ロシアがアメリカに共闘を呼び掛けても応じないので、単独で攻撃をすると、ニュースは、アメリカの好むように、ロシアを悪者に見せようとしている。これでは事実が伝わらないだけでなく、我々を誑かして共犯者に仕立てることになる。「馬の口から」つまり本人が認めていることを、なぜ報道しようとししないのか？ チョストフスキーの指摘しているのは、アメリカと西側同盟国こそ、（武器を取らない）大元のテロリストだという事実である。

By Michel Chossudovsky

October 1, 2015

十分に文書記録されているのに、ニュース報道ではめったに言われないことは、ISISがアメリカ情報機関のつくり出したもので、募集、訓練、資金援助などが、アメリカとその同盟国である、英、仏、サウジアラビア、カタール、トルコ、イスラエル、およびヨルダンによって行われていることである。

最近までISISは、イラクのアルカーイダ（AQI）として知られていた。2014年に、それは「イスラム国」（Islamic State of Iraq and Syria, Islamic State of Iraq and the Levant）と改称された。

現在、ロシアはテロとの戦いに関わっている

シリア - イラクの戦争の力学における、ある大きな転換点が展開しつつある。ロシアが今、シリアとイラクの政府と協調しながら、直接、対テロ作戦に関わっている。

ワシントンがモスクワの決意を認める一方で、いまオバマは、ロシアが、ワシントンに支援された“良い者テロリスト”を標的にしていると不平を言っている

馬の口（一番確かな情報源）から

ウォールストリート・ジャーナルによれば――

シリアにおけるロシアの空爆が CIA 子飼いの反政府軍を狙っている ――米高官談

攻撃された一つの領域は、本来、CIA とその同盟機関に、財政支援、兵器、訓練を受けていた反政府軍に占拠されていた

<http://www.globalresearch.ca/wp-content/uploads/2015/10/Screen-Shot-2015-10-01-at-17.09.24.png>

このウォールストリート・ジャーナルの報道に含まれている一つの重要な、無言の情報は、CIA がテロリストを、シリアの“政権交替”を引き起こす手段として、支援しているという事実で、これはシリア領土内部で、ひそかな情報部作戦が行われていることを意味する――

「米スパイ機関は、2013 年以来、アサド政権と戦うために、シリアの反政府軍に武器を供与し訓練していた」（WSJ、2015/9/30、著者注：テロリストへの密かな支援は、2011 年 3 月のこの戦争の初めから行われている）

上の言明は、文書記録された既知のものだが、主流メディアによって認められることのほとんどなかったものである。

アルヌスラ：“良い者テロリスト”

ペンタゴンは今、CIA が、シリア内のアルヌスラと、アルヌスラの友好集団を支援していることを、正直に認めているが、にもかかわらず彼らは、ロシアが、ワシントンに支援されて

いる“良い者テロリスト”を標的にしているという嘆いている。

ロシアの空爆の一つが、本来、中央情報局（CIA）とその同盟のスパイ局に支援されている反政府集団が、占拠していた領域を攻撃した、と米高官たちは言った…

シリアの国家メディアが、ロシアの攻撃の標的としてリストに上げている 7 つの領域の中で、一つだけ——Hama 地区の Salamiyah の町の東側の領域——が、イスラム国戦闘家の既知の集団をもっている。リストされている他の領域は、ほぼ、**穏健な反政府分派、または Ahrar al-Sham や、アルカーイダにつながったヌスラ・フロントなどのイスラム主義集団**に支配されている。（WSJ、2015/9/30）

アルカーイダの友好集団であるアルヌスラは、アメリカをスポンサーとする“ジハーディスト”テロリスト組織で、数えきれない残虐行為を行ってきた。2012 年以來、アルカーイダとアルヌスラ——共に米情報局に支援されている——は、シリア内部でのさまざまなテロ企画を、結託して実行している。

最近の展開では、シリア政府は、それ自身の重要な地域を、ロシアの対テロリズム空中作戦のために明らかにしたが、これは基本的にアルヌスラを攻撃するためである。アルヌスラは、自由シリア軍（FSA）のテロリスト部隊と説明されている。

ワシントンは、アルヌスラをテロ組織の範疇に入れたが（2012 年初め）、にもかかわらず彼らは、アルヌスラと、そのいわゆる“穏健派反政府軍”を、武器、訓練、補給支援、新兵募集などの形で支援している。この支援は、アメリカのペルシャ湾同盟国であるカタール、サウジアラビア、またトルコやイスラエルを通じて届けられている。

皮肉なことに、国連安保理は 2012 年 5 月決定で、「**シリアのアルヌスラ・フロントを、イラクのアルカーイダ——すなわち ISIL——の別名（偽名）だとして、ブラックリストに入れた**」——

この決定は、この集団に、武器の輸入禁輸、旅行禁止、および資産凍結などの制裁を加えるものだと外交官連は言った。

国連への米使節団は、15 名の安保理メンバーの誰一人、イラクのアルカーイダの別名としてのアルヌスラを、（リストに）加えることに反対しなかった、と言った。

バシヤール・アル・アサド大統領と戦っている、最も有効な勢力の一つであるアルヌス

ラは、先月、アルカーイダのリーダーである Ayman al-Zawahri に忠誠の誓いをした。
(アルジャジーラ、2015/5 月)

そして現在、ロシアは、国連安保理のブラックリストに載っているだけでなく、イスラム国 (ISIS) とつながっているテロリスト集団を、標的にしたとって非難されている。

こうした非難の意味するものは何だろうか？

メディアの物語は、ロシアが対テロリズム作戦を支持していることを認めているが、実際にはロシアは、シリア政府を支持してテロリストと戦うことで、米 - NATO 連合軍と (間接的に) 戦っているのである。そしてこのテロリストは、たまたま西側軍事同盟の歩兵であり、西側の傭兵と軍事アドバイザーがその隊員となっている。実際は、ロシアは、アメリカによって支援されたテロリストと戦っているのである。

禁じられた真理は、シリアとイラク両国を軍事援助することによって、ロシアは (間接的に) アメリカと対決しているということである。

モスクワは、アメリカとその同盟国に支援された ISIL と代理戦争をしているこの両国を、支援しているのである。